

# やもとよこあな 矢本横穴

## —丸子・道嶋氏一族の墓—

横穴墓は、丘陵や台地の斜面に穴を掘って、亡くなった人を埋葬した墓です。矢本横穴には、当時の上総国（千葉県）で特徴的にみられる墓と同じ形態をもつものがあり、造営に丸子（のちの道嶋）氏が深く関わったことを裏付けています。墓からは男性のみならず、女性や未成年の人骨が発見され、朝廷との結びつきを示す遺物や副葬品も数多く見つかったことから赤井官衙遺跡に関わる人々の墓であったと考えられます。



発見された横穴墓

### これまでの調査成果

発掘調査は1968年、1969年に初めて行われました。その後、しばらく発掘調査は行われませんでした。宮城県北部連続地震や東日本大震災によって斜面が崩れたため、災害復旧工事に伴い、約90基の横穴墓が調査されました。人骨や土器をはじめ、刀などの鉄製品、<sup>まがたま</sup>勾玉などの装飾品、古銭など多数の遺物や副葬品が発見されています。

### こうだんしきよこあなほ 高壇式横穴墓



玄室が一段高くなっている墓

<sup>げんしつ</sup>玄室（被葬者を安置する場所）が一段高い位置に造られる「高壇式」と呼ばれる特殊な形態のもので、丸子（のちの道嶋）氏の出身地（上総国）のものに似ています。

### 埋葬のようす



人骨が集められている様子

多くの墓から複数の被葬者の骨が見つかっています。中には1つの墓に10体以上が埋葬されているものもありました。亡くなるたびに、**追葬されたもの**と思われる。

横穴墓は古墳時代の後半に、九州北部で最初に造られるようになりました。その後、各地に見られるようになりましたが、東北地方では宮城県と福島県に分布しており、奈良・平安時代まで使われていたようです。

### 横穴墓の構造

横穴墓は、亡くなった人を安置する**玄室**、玄室の入り口である**玄門**、玄門までの通路である**羨道部**、葬式などの儀式を行う**前庭部**からなります。玄室の天井部分の形による違いがあり、矢本横穴ではアーチ型とドーム型が多く見られます。

